

# 市政トピックス



## 緊急時の備えは 日ごろの訓練から

9月24日に広瀬町内の飯梨川河川敷で安来市総合防災訓練を開催しました。訓練は20以上の団体の協力を得て、救助・避難確認・救助物資の運搬・炊き出しなど、緊急時のそれぞれの場面を想定し、各団体の連携のもと繰り広げられました。

今回は初めて、避難所の開設・運営の訓練を実施。自主防災組織などの皆さんが参加した机上でのシミュレーション訓練を行いました。これはHUGと言われ、様々な場面や状況を記したカードを使い、避難所運営をゲーム形式で行うものです。

4月に発生した熊本地震でも避難所が開設され、運営の難しさが報道されました。速やかな立ち上げ、安定的な運営が重要視されています。



▲机上での訓練を行う参加者の皆さん。いろいろな場面を想定したカードを使い、避難所運営に取り組みます。

## 45人が白寿の祝い 市長がお宅訪問

敬老の日に合わせて、白寿(数え年で99歳)を迎える市民45人に記念品を贈呈しました。

この内、9月28日には、布部の小藤キクノさんのお宅を近藤市長が訪ね、お祝いの言葉と祝いの品を贈りました。

昔から造林業や農業などに従事し、大病もなく健康を維持してきた小藤さん。今の健康状態もよく、布団の出し入れや草取り、入浴などを一人で行います。

「長寿の秘けつは？」という質問には、「一日三食しっかりおいしく食べることです」と答え、「(同居する)娘とビールを分け合って飲むことが最高に幸せです」と笑顔で話していました。



▲近藤市長の訪問を受ける小藤キクノさん(右)。

## 楽しく学び、環境について考えよう

9月11日、「やすぎ環境フェア2016」を和鋼博物館前で開きました。この催しは地球温暖化をはじめとした環境問題への理解と関心を高めるため、毎年開催しているものです。

フェアには環境関連企業や近隣の行政機関など18の団体がブースを設け、地球温暖化・リサイクルなどへの取り組みや、中海・飯梨川の環境報告、環境に配慮した新製品の紹介など、多彩な展示が並びました。

また、太陽エネルギーで動くペンギン型プラモデルづくりや水道水のきき水クイズなど、体験しながら学べるイベントが多く、子どもたちや親子連れの楽しむ姿が見られました。

ステージでは、小学生が環境



(上)発表する赤江小学校の児童。(下)中海に生息するタツノオトシゴなども展示されました。



にぎわった会場の様子

学習の取り組みの成果を披露。赤江小4年生は飯梨川の環境について調べ、下流・中流・上流の生物調査や、流れる場所によって水質が違うことなどを発表しました。

同小4年福山朔太郎くんは、「飯梨川は昔から住民にとって大切な川だということがわかった。反面、ゴミが多かった。ポスターなどを作って呼び掛けたい」と話していました。

フェアでは、ゴミ箱の設置をやめ、提供する飲食物にリユース食器を使用するなど極力ゴミが出ないよう配慮しました。来場者はイベントを通して、環境を守る大切さを学びました。